

Title	日常会話における文末「力」の文の実態
Sub Title	
Author	林, 淳子(Hayashi, Junko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2021
Jtitle	日本語と日本語教育 No.49 (2021. 3) ,p.27- 53
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究ノート
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20210300-0027

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

日常会話における文末「カ」の文の実態

林 淳 子

1. 目的

本稿では文末に終助詞「カ」を置く文（以下、「文末「カ」の文」と呼ぶ。）について述べる。終助詞「カ」は疑問文という文の種類とむすびつきの強い文法形式である。たとえば、文末「カ」の文である（1a）（1b）は相手に質問をして答えを求める疑問文らしい疑問文である。しかしながら、（1c）（1d）のように文全体が表す意味やイントネーションが（1a）（1b）と異なり、疑問文とは言にくい文末「カ」の文（以下、「非疑問文」と呼ぶ。）もある。

（1） a. [午後一時にすれ違った同僚に]

「もうご飯食べましたか？」

b. [重そうな荷物を持っている人に対して]

「その荷物、私が持とうか？」

c. [部下が出勤しないことに呆れる上司が]

「山田はまたずる休みか！」

d. [徹夜で仕事をして、ふと気づくと空が白んでいた時]

「もう朝か」

このような事実と文末「カ」を疑問の助詞と見ることとがどのように両立するかという関心から、林（2019）では文末「カ」の文の種類を確認し、文末「カ」の文が「述べることの回避」を明示する発話であると主張

した。また、林（2020）では「述べることの回避」の内実に焦点を当て、文末「カ」の文が疑問文においても非疑問文においても断言放棄の文と断言躊躇の文に分けられることを明らかにした。こうして、文末「カ」の文の全体像は大まかに把握できたものの、林（2019）・林（2020）はともに映画シナリオの台詞部分を資料とするものであり、話し言葉における文末「カ」の文の姿をより精密に捉えるには、実際に行われた会話のデータによる検証を行う必要がある。

そこで、本稿は現代日本語の日常会話を資料として、林（2019）および林（2020）で述べたことの妥当性を検証するとともに、文末「カ」の文の使用実態を明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

調査には『日本語日常会話コーパス』モニター公開版を利用する。

『日本語日常会話コーパス』（Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC）は国立国語研究所によって構築された日本語日常会話のコーパスである¹。小磯ほか（2019）によれば、このコーパスには個人密着法という収録方法で集められた、日常の多様な場面で生じる会話が収められている。200時間規模の会話を収めるコーパス全体のうち、現在は50時間分の音声、転記データ、映像等がモニター公開されている。

本稿では、このモニター公開版を利用し、日常会話における文末「カ」の文の実態を調査した結果を示す。なお、このモニター公開版には中納言版とハードディスク版がある。中納言版はハードディスク版のサブセットであるが、短単位情報をオンライン検索することが可能である。ハードディスク版には音声・転記データ・映像等の情報が収められている。調査手順の詳細は以下のとおりである。

まず、中納言版を利用して（2）の条件で検索を行い、2931例の文末「カ」の文を得た。

(2) 出現位置：発話単位末から1語

キー：品詞「終助詞」＋語彙素「か」

全例について映像の確認を含め丁寧に検討することは難しいため、話者の年代・性別・職業の均衡性を考慮し、表1の調査協力者が参加する会話の例のみを分析対象とした。

表1 分析対象の限定①調査協力者

協力者 ID	年代	性別	職業・職種
T010	20 代	男性	大学生
T009	20 代	女性	大学生
T001	30 代	男性	自営業・自由業
T003	30 代	女性	専業主婦
T002	40 代	男性	自営業・自由業
C001	40 代	女性	会社員・公務員等
T015	50 代	男性	会社員・公務員等
K002	50 代	女性	自営業・自由業
T013	60 代	男性	その他（非常勤講師）
T004	60 代	女性	専業主婦

さらに、調査協力者によって会話の量に差が出ないように、一人の調査協力者が参加する複数の会話の中から各調査協力者につき合計2時間程度の会話を選び、分析対象を限定した。会話の選択に際して、会話の形式や話者間の関係性に偏りがないように配慮した。この結果、表2に掲げる会話に生じる1224例の文末「カ」の文が分析対象として残った。

表 2 分析対象の限定②会話

会話 ID	会話概要	話者数	時間 (分)	形式	話者間の 関係性
T010_003	自宅で母・兄と夕食後の団欒	3	37	雑談	家族
T010_004	大学で同じゼミの友人 2 人と授業の合間に雑談	3	34	雑談	友人知人
T010_007	喫茶店で母校の高校の教員と講座の企画の打合せ	2	18	用談 相談	先生生徒
T010_009	大学でゼミの先生と 4 年生の送別会について相談	2	23	用談 相談	先生生徒
T009_006	学園祭の実行委員会サークルの幹部と会議	9	21	会議 会合	友人知人
T009_010	自宅で両親・祖母と夕飯を食べながら	4	17	雑談	家族
T009_017	恋人と溪谷と散策しながら	2	23	雑談	友人知人
T009_020	上京した父方の祖父母と両親・母方の祖母と自宅で団欒	6	22	雑談	家族親戚
T009_022	バイト先でバイトの先輩と雑務や接客をしながら	2	30	用談 相談	同僚
T001_002	自宅で妻と一緒に購入した棚の組み立て	2	54	用談 相談	家族
T001_009	妻の実家で妻・義母と食後の団欒	3	19	雑談	家族親戚
T001_014	飲食店で英会話教室の友人 2 人と飲み会	3	45	雑談	友人知人
T003_001	自宅で小学生の息子 2 人の勉強を見ながら	3	11	用談 相談	家族
T003_004	子供の幼稚園時代のママ友 2 人とバザーの打合せ	3	28	用談 相談	友人知人
T003_007	夫の実家で夫と夫の両親・弟と夕食後の団欒	5	33	雑談	家族親戚
T003_017	息子が通う小学校で PTA 役員 4 人とイベントの打合せ	5	20	会議 会合	友人知人
T003_019	湖畔で夫と息子 2 人のキャッチボールを見ながら	4	5	雑談	家族

T003_021	子供の幼稚園時代のママ友４人と友人宅で昼食会	5	21	雑談	友人知人
T002_006a	初対面である直也のイベント受講者と直也の友人の３人で雑談	3	10	雑談	友人知人 仕事関係 初対面
T002_014	飲食店で妻・韓国人の友人とスイーツを食べながら	3	11	雑談	友人知人 家族
T002_015	飲食店で元職場の先輩と食事しながら	2	36	雑談	友人知人
T002_019	カフェで仕事関係者と仕事の打合せ	2	19	用談 相談	仕事関係
T002_020	公園で友人２人とお茶を点てながら	3	51	雑談	友人知人
C001_001	飲食店で友人４人と誕生日会	5	31	雑談	友人知人
C001_002	友人宅に宿泊し起床後に友人と雑談	2	17	雑談	友人知人
C001_005	実家から知人宅に向けて母と散歩	2	17	雑談	家族
C001_007	実家で両親とニュースを見ながら夕食	3	51	雑談	家族
T015_003	経営する会社の応接室で取引先と打合せ	2	16	会議 会合	仕事関係
T015_006	経営する会社の従業員４人と飲食店で送別会	5	24	雑談	同僚
T015_007	経営する会社の応接室で取引先２人と営業対応	3	9	会議 会合	仕事関係 同僚
T015_008a	床屋で中学の同級生の理髪師に散髪してもらいながら	2	30	雑談	サービス 場面関係
T015_010	取材先の飲食店でオーナーに取材しながら	2	18	用談 相談	仕事関係
T015_014	寿司屋でボーイスカウトの先輩と懇談	2	12	雑談	友人知人
K002_007	自宅で娘と娘のスケジュールを確認	2	29	用談 相談	家族

K002_010	飲食店で友人と今後の仕事について打合せ	2	34	用談 相談	友人知人
K002_014	宿泊施設で起床後に夫・息子と朝食	3	49	雑談	家族
T013_006	職場の大学教員室で同僚 5 人と昼食を食べながら	6	5	雑談	同僚
T013_008	妻の実家で義母・義弟の妻と朝食後の雑談	3	8	雑談	家族親戚
T013_009	妻の実家で夕食準備中に義母・義妹・妻と雑談	4	5	雑談	家族親戚
T013_013	勤務する大学の学生 3 人と公園を散策	4	19	雑談	先生生徒 友人知人
T013_014b	飲食店で勤務する大学の学生 3 人と懇親会	4	13	雑談	先生生徒 友人知人
T013_018	飲食店で元同僚の中学の教諭と飲みながら	2	30	雑談	友人知人
T013_021	飲食店で大学時代の先輩と思い出ばなし	2	15	雑談	友人知人
T004_001	自宅で夫・息子と野球中継を見ながら夕食	3	27	雑談	家族
T004_006	温熱療法施設で施術師と施術後の雑談	2	29	雑談	サービス 場面関係
T004_013	地域懇談会の委員 4 名とイベント企画について打合せ	5	33	会議 会合	仕事関係
T004_014	地域活動の会の理事会仲間 3 人と総会準備	4	25	用談 相談	友人知人

こうして限定した 1224 例の文末「カ」の文について、転記データや映像・音声を確認し、林（2019）および林（2020）の分析に照らし合わせるにより、日常会話における文末「カ」の文の実態を把握することが本稿の目的である。以下、3 節では日常会話に生じる文末「カ」の文の種類について、4 節では 3 節で確認した各種の文末「カ」の文の話者について述べる。

3. 文末「カ」の文の種類

3.1 調査結果の概要

林（2020）では文末「カ」の文の全体像を表3のように把握した。

表3 文末「カ」の文の全体像（林（2020）表3を改変）

	断言放棄	断言躊躇
疑問文	【不確定感】 「もうご飯食べましたか？」	【行為実現の妥当性不明感】 「手伝おうか？」
非疑問文	【心理的抵抗感】 「山田はまたずる休みか」	【未消化感】 「もう朝か」

疑問文でも非疑問文でも文末「カ」の文には、言語化した内容を断言できない状況にある話し手が「カ」によってそのことを明示する断言放棄の文と、断言しようと思えばできる状況であえて「カ」を添えて断言しないでみせる断言躊躇の文がある。疑問文の場合、断言放棄の文は話し手が内容に対する不確定感覚を抱えているために断言できない状況で発話される通常の疑問文を指し、断言躊躇の文は話し手自身の意志についてその行為実現が自分自身もしくは相手にとって妥当であるかどうか不明なために断言を躊躇してみせるシヨウカ疑問文（文末が「動詞シヨウ形＋カ」で構成される疑問文）がこれに当たる。

一方、非疑問文の場合、断言放棄の文は状況から導かれる解釈に対して話者が強い心理的抵抗感を持って発話する（1c）「山田はまたずる休みか！」のような文を指し、断言躊躇の文は話者がその内容を意識してから時間が短く、内容に対する未消化感を持って発話する（1d）「もう朝か」のような文のことを言う。

こうして、疑問文／非疑問文の別と断言放棄の文／断言躊躇の文の別の交差分類によって、文末「カ」の文は大まかに4つの類に分類することが

できる。本稿の分析対象である 1224 例を上記の文末「カ」の 4 分類に照らし合わせれば、各類に属する例の数は表 4 のとおりである。

表 4 本稿の分析対象の内訳

	断言放棄	断言躊躇
疑問文	342 例	73 例
非疑問文	6 例	634 例

表 4 から分かるように、疑問文は断言放棄の文、非疑問文は断言躊躇の文に例が偏る傾向にある。また、3.4 節で詳しく述べるとおり、非疑問・断言放棄の類に属する 6 例は、林（2020）でこの類に属する文の例とした（1c）「山田はまたずる休みか！」とは異なるタイプの文である。

なお、否定疑問文（110 例）は同意要求や意見表明、相手の知識の活性化など、特有の用法を持つため、表 4 に含めない。また、（3）のように「カ」を含む複合的な文末形式「ていうか」で終わる文（39 例）、「カ」の前の内容が聞き取れず、転記データでも文字化されていないため分析ができない例や、「誰か」「いくつか」のように疑問詞に「カ」を添えた表現を文末に置いた例など（計 20 例）も文末「カ」の文の分析対象にならないため、扱わない。

（3）[聡美が借りた部屋の有効活用について話し合う]²

塚田：じゃ そのスペースは絶対その公文のためにとかってゆうこと
でもなく まあ多目的な感じで使える。

（中略）

直也：ほら。違う。

子供がさ 来る時間でもうあの限られてるってゆうか。

聡美：そう そう。午後二時とか。

(中略)

直也：その時間しか使わないわけでしょ。

聡美：そう。

直也：要は塾って言っても。

塚田：あー。なるほどね。そうですね。 (T002_006a)

3.2 節から 3.5 節では、表 4 の各類について、具体的にどのような文があるか、映画シナリオを調査した林（2019）・林（2020）との違いを含めて確認する。

3.2 疑問・断言放棄

表 4 に示したとおり、疑問の文末「カ」の文は断言放棄の文すなわち内容に対する話者の不確定感覚に基づいて発話される通常の疑問文の方が多い。この類に属する文の言語行為としての姿に着目すれば、日常会話コーパスを用いて調べた結果として当然ながら、質問の例が圧倒的に多く、342 例中 286 例（83.6%）は質問である。質問には、(4) のように不明な項目（「何」）の特定を求める疑問詞疑問文の質問と (5) のように話し手が言語化した内容がそのとおりであるかどうかをたずねる肯否疑問文の質問がある。

- (4) [大学の教員（溝口）が、学生と食事をしながら話す]

溝口：ホテル綺麗な水で ホテルの餌がないとね。

田辺：ホテルの餌。ホテル 何食べるんですか。

溝口：うん。カワニナとかじゃない？

田辺：へー。 (T013_013)

- (5) [自宅で夕食中、ハンバーグを作った人が食べている人にたずねる]

桃子：パパのが一番でかいんですが。

圭吾：うん。

桃子：焼けてますか？中まで。

圭吾：うん。 (T009_010)

一方、(6)のように質問ではなく話者の抱く疑問を表明するだけの文は21例と少なく、やはり会話における疑問の文末「カ」の文の使用は質問に偏ると言える。

- (6) [実家で食事をしながら親子の雑談。近々孫の杏奈（玲子にとっては姪）がやってくることについて]

母：杏奈がどうなってるか。

玲子：まだじいじ じいじか。

母：いつまでじいじ じいじか。

玲子：うーん。

父：まだお風呂入れるんだろうか。

玲子：十歳だからね。 (C001_007)

また、(7) (8)のように疑問の「～カ」節を体言相当として扱う例が35例見られる。

- (7) [自転車のトレーニング用に取り付けた機械について話す]

美沙：なんかね で これを自転車のほうにワイヤレスでえーとなんだ 回転数を見るのを取り付けて。

(中略)

玲子：すごい すごいね。

美沙：なんかね トレーニングにやっぱり。

玲子：うん。

美沙：あと 距離どれくらい乗ったか。

玲子：うん うん うん うん。

表示されるのはいろいろなんだ。(C001_002)

- (8) [父親（夫）と小学生の息子（朔也）がクワガタの飼育について話す]

朔也：オオクワガタ雄と雌で卵産んだんだって。

夫：ふーん。

卵ってどこに産むの？ 木に産むの？

朔也：木か土に産むか。

夫：うん。ふーん。

もう パパ忘れちゃったよ。(K002_014)

(7) は話題になっている機械を使えば「どれくらいの距離を乗ったか」が表示されると言っているものであり、たとえば朝食の話題の中で「私は今朝パン食べた」と言わずに「パン」と名詞一語で済ませるのと同じことである。また、(8) も同様に、「木（に産む）か土に産むか、分からない。」と言わずに「～カ」節の部分のみを発話したものと考えられる。日常会話では、「～カ」節に限らず、このように体言相当のことばだけを発して会話を進めていくやり方が頻繁に見られるが、このタイプの文末「カ」の文は林（2019）・林（2020）では取り上げておらず、日常会話コーパスを用いた調査ではじめて見出すことができた。なお、このような文末の「～カ」節の大半（35 例中 24 例）は（8）のような選択疑問であった。

このタイプの文末「カ」の文では疑問の意味が対象化されており、質問や疑問表明のように疑問の意味が話者と相手のコミュニケーションに直接的にかかわるわけではない。したがって、このタイプを質問や疑問表明の文と並べて疑問の文末「カ」の文に数えるべきではないかもしれないが、疑問の意味が確かに感じられることに加え、(6) の「まだじいじいじか。」「いつまでじいじいじか。」が実際の映像を確認すると体言相当の「～

「カ」節を言語場に置いただけの表現に見える一方で、イントネーションを変えれば疑問表明の表現としても成立する可能性を持つように、文末「カ」による疑問の意味がコミュニケーションにかかわる度合はあらかじめ各々の文に備わっているものではなく、発話の中で結果的にそのように働くということに過ぎないと考えられることから、(7) (8) も疑問の文末「カ」の文の一種と考えたい。

3.3 疑問・断言躊躇

疑問・断言躊躇の類に属するのはシヨウカ疑問文である。シヨウカ疑問文についても言語行為としての姿を見れば、73 例すべてが (9) (10) のような質問である。

(9) [夫婦で棚を組み立てている]

優香：これ押さえる人のが力あったほうがいいから代わろうか。

広瀬：ううん。大丈夫。

途中まで回さないと回らないんだわ。 (T001_002)

(10) [ママ友同士で日程調整を行う]

美希：じゃ 十六日 月曜日 大村会館 調理室。

皆さんご都合いかがですか？

由美：うん。

陽菜：もしくは十七で二日候補入れてみる？

由美：そうね。

陽菜：十六か十七で。で多いほうにしようか。

由美：うん。 (T003_004)

疑問・断言放棄の類に属する通常の疑問文に見られた疑問表明や体言相当の使い方が疑問・断言躊躇の類で見られないのは次のような事情によると考えられる。まず、疑問表明については、シヨウカ疑問文を用いて話者

が自身の行為実現妥当性をめぐる疑問を表明する場合、「代わろうかな」「多いほうにしようかな」のようにシヨウカに終助詞「ナ」を付した「シヨウカナ」の形式をとるのが一般的であると考えられる。また、体言相当の使い方については、現代語の動詞シヨウ形は話し手の意志を表す専用形式であるため、「シヨウカ」節を対象化することが難しいのだと思われる。

このように、表4の分類に沿って疑問の文末「カ」の文の言語行為面のあり方を観察してみると、全体として質問に用いられて会話を推進する役割を担うことが多いものの、断言放棄タイプと断言躊躇タイプとでは質問以外の言語行為への広がり方が異なることが分かる。

3.4 非疑問・断言放棄

非疑問の文末「カ」の文は、表4に示したように断言躊躇の文が多く、断言放棄の文は6例と数が少ない。その中にはまず、いわゆる「突っ込み」の表現である(11)のようなものがある。

- (11) [ママ友と子供が集まって食事中、ある子どもがキュウリばかり食べているのを見て]

紀子：キュウリ好きだね。

晴美：あたしずっとキュウリ キュウリ キュウリゆわれて。

綾子：すごいキュウリ。河童か。

紀子：河童でしょ。

(T003_021)

(11)「河童か」の話者は、目の前でキュウリを食べている子どもが河童であるはずないと分かったうえで、そのようなこと(キュウリをたくさん食べることをするのは河童しかいないと言っている。いわゆるボケとツッコミでよく発話される「アホか」も、しみじみと断言するのであれば「アホやなあ」になるのであり、本当は違うと知りつつ、そのようなことを言うのはアホしかいないと言っている点で、「河童か」と同じ構造である。

さらに、「はっきりそうだとは言にくい」という話者感情が前面に押

し出されたのが、(12)の「まじか」であり、この類の6例中4例はこの「まじか」が占める。

- (12) [教員(石塚)と学生(徹)がゼミの飲み会で論文集を配布する方法について話し合う]

石塚：でみんなで持ってくるの？

徹：[笑いながら] はい。みんなでちゃんと。

石塚：で発熱しましたとかゆって。

徹：言いそうですね。結局来てくれる人が一人四冊ぐらい持って帰るみたいなやつです。

石塚：まじか。

(T010_009)

(11)(12)のような文はまるで河童のようであるけれども「この子は河童である」とは断言しにくい、どうやら本当のようであるけれども「この話が本当(=「まじ」)である」とは認めにくいという話者の心理的抵抗感に基づき、「カ」の前に置かれた内容の断言を放棄する点で、紛れなく非疑問・断言放棄の類に属するものである。このような文を発話する話者の動機は、まるで河童のようだと感じたこと、どうやら本当らしいと感じたことを表現したいというところにあるのであろう。

一方で、(11)(12)は林(2020)で同じ非疑問・断言放棄の類に属するとした(1c)「山田はまたずる休みか!」とは話者の心理的抵抗感の内実が異なる。すなわち、(1c)「山田はまたずる休みか!」における話者の心理的抵抗感「カ」の前に置いた内容に対する不快感であるのに対して、(11)(12)における話者の心理的抵抗感「カ」は、どちらも文字化すれば「!」をつけたくなるほど文末の「カ」を強く言うなど、共通する点があり、大まかに同じ類に属すると見ることができるものの、映画シナリオの台詞部分と実際

の日常会話とでは、その具体的な姿が異なるようである。

3.5 非疑問・断言躊躇

非疑問・断言躊躇の文末「カ」の文は 634 例と非常に多く、具体的な内容は多岐に渡るが、このタイプの文末「カ」の文が生じる場面は以下のように整理することが可能である。

【気づき】 128 例

話者が何かに気づき、その気づいた内容を言語化する場面で、文末「カ」の文が多く見られる。たとえば (13) は、打合せで文書の配布時期を決めた時に、その決定に沿って考えれば準備期間が想定より長いのでゆっくり準備できるということに気づき、発話するものである。

(13) [地域のイベントを企画運営する委員の打合せ]

田代：お便り配るのは九月でね。

飯塚：うん。

岩崎：九月に入ってからでも いいと思いますよね。

飯塚：うん うん うん。

一ノ宮：いいと思います。

田代：じゃあ もうちょっとゆっくり準備できるか。 (T004_013)

気づきには (14) のようなモノの発見の例も含まれる。

(14) [居酒屋で焼酎を頼んだら、ボトル、氷、グラスなどが別々に運ばれてきたため、その中からグラスを探す]

店員：芋焼酎でございます。

溝口：はい。どうも。グラス。あ。

北村：[焼酎のボトルを手に取り] これみ 見せて見せて。

溝口：[グラスを手に取り] これグラスか。 (T013_021)

また、気づいた内容について具体的に言語化せず、ひとまず「あれ」と指示語で表して発話する「あれか」も気づきの文末「カ」の文の一種と言える。この場合、(15)の「今シートが貼ってない面と溝の向きを揃える。」のように「あれか」の後で改めて気づきの具体的な内容が発話されることが多い。

(15) [夫婦で棚を組み立てる]

広瀬：これ裏表ないんだろうか？

ないね。

優香：あつ。ほんと。これはないんだね。

広瀬：あー。でもあれか。

今シートが貼ってない面と溝の向きを揃える。

優香：シート？

広瀬：シートの貼ってない面。 (T001_002)

気づきは基本的には(13)～(15)のようにこれまで気づいていなかったことに気づく場面を指すが、(16)や(17)のように話者が自身の知識から会話に関係する項目を思い出す場面も、話者の意識の中で顕在化したばかりの内容を言語化した点では同様であり、気づきに準じるケースとして捉えられる。

(16) [スポーツ経験者は他のスポーツもできるということについて話す]

龍之：たぶんサッカーとテニスやってる人は(筆者注：他のスポーツも)大体できる気がする。

徹：テニスすごいね。あれ瞬発力とかね。

龍之：あとバスケもか。

大場：うん。 (T010_004)

(17) [友人と近所のお店について話す]

美沙：オイスターバー 今 二軒 二軒あるの知ってる？

玲子：うん。あれっ？こっちもある？

美沙：あの東通り沿いともう一軒あの角のニコってゆうところか。

玲子：うんうんうん。 (C001_002)

【訂正】62 例

これまで言ったり考えたりした内容について、間違いに気づいたり考えを変えたりして、訂正をする場面でもしばしば文末「カ」の文が用いられる。たとえば (18) のように串揚げ屋に行ってヤーコンという食べ物を知った時期について、はじめ「三カ月ぐらい前」と言ったのを「もうちょっと前」に訂正する文がこれに当たる。

(18) [由美がヤーコンを初めて知った時のことを回想する]

由美：あたし三カ月ぐらい前になんかあの串揚げ屋に行って。

直也：あっ。うん。うんうん。

由美：あ。もうちょっと前か。 忘れたけど。

ヤーコンで書いてあって ヤーコンで何みたいになって 頼んでみたらなんかしゃきしゃきだったから。 (T002_015)

調査範囲で 8 例を確認した「違うか」は訂正の内容を言語化せずに、ただ前言の訂正の可能性だけに言及するものであり、訂正の文末「カ」の文の特殊タイプとして位置づけることができる。

(19) [野点で直也が水筒のお湯を使って茶筌を洗おうとする際、「しゃわ

しゃわ」する洗い方をするのかどうかに注目する]

永井：しゃわしゃわすんの？あっ。

直也：いや。

永井：違うか。

直也：もうしゃわしゃわはやめました。(T002_020)

また、何か注意を向けていたこと、気にしていたことについて、その注意・意識を手放す場面で発話される「(ま、) いいか」も、これまでの態度の撤回を言語化する点で訂正の文末「カ」の文に通じる。このタイプは調査範囲に 15 例見られた。

(20) [野点で直也が道具を拭くのを忘れてお茶を点て始めた]

直也：あっ。拭くの忘れた。まいいか。

永井：いや。

みっちー：オッケー オッケー。(T002_020)

【行動決定】18 例

話者がある行動を遂行するのが適切であるという認識に至り、行動を行うに際して自分に対するかけ声のように文末「カ」の文を発話する場面もある。

(21) [家族団欒中、ベットの猫が部屋から出たように閉まったドアの前で鳴くを見て]

早苗（祖母）：開けといていいのよ。

自由にさせとけば。

安藤（孫）：んじゃ 開けとくかね。

桃子（母）：[娘の発言とほぼ同時に] じゃあ あそこ開けとくか。

[実際には孫が開けに行く。]

(T009_020)

このタイプの文末「カ」の文を発話する場面では(21)のように、話者は積極的に行為遂行の意志を持つというより、そのような状況に追い込まれて仕方なく行為遂行を決めることが多い。

【受け止め】 426 例

非疑問・断言躊躇の文末「カ」の文でもっとも多いのは、ほかの会話参加者の発言やその場の状況を受け止める場面で発話されるものである。ここまで見てきた非疑問・断言躊躇の文末「カ」の文の内容がすべて話者が自発的に構築した内容であったのに対し、この場面で生じる文末「カ」の文の内容は直前にあるほかの会話参加者の発話（たとえば、(22)の杉田(妻)の「もう無理だよ。」)の繰り返しであることが多い。

(22) [家族旅行の宿泊先で、その日の予定を立てる]

夫：あとはいくつ何でしょうか。じゃあ。

朔也：卓球。

夫：あ。じゃあビュッフエ。

杉田：昼からもう もう無理だよ。

夫：あ。もう無理か。

杉田：だってこの時間 昼だし。

夫：もう昼だもんね。

(K002_014)

受け止めの内容が具体的に示されず、指示語「そう」で表されれば「そうか」になる。「そうか」は受け止めの 426 例中 290 例に上るが、その中にはあいづち表現と化し、強く受け止めの意味を表さないものもある。

(23) [電車の中で食事をするものの是非について話す]

岩崎：コンビニ買ってもうほんとに十五分しかなかったらもう
で もうここで一時から始まる。

一ノ宮：だって時間ないんだもん。

松下：おー。

一ノ宮：電車途中で食べちゃう。

松下：そっか。 (T004_013)

3.4 節で述べたように、非疑問・断言放棄タイプでは映画シナリオに見られる例と日本語日常会話コーパスから得た例で発話の背景にある話者の心理的抵抗感の内実が違ったが、この非疑問・断言躊躇タイプでは発話の背景にある話者の未消化感の内実に目立った違いは認められない。すなわち、話者の気づきや決意、状況の受け止めから時間を置かずに発話されるこれらの文は、話者自身がその内容をまだ消化できていないという感覚を

表5 日常会話における非疑問の文末「カ」の文

断言放棄	①突っ込み：(11)「河童か」
	②「まじか」：(12)
断言躊躇	①気づき：(13)「じゃあもうちょっとゆっくり準備できるか」 発見：(14)「これグラスか」 「あれか」：(15) 思い出し：(16)「あとバスケもか」 (17)「あの東通り沿いともう一軒あの角のニコってゆうところか」
	②訂正：(18)「もうちょっと前か」 「違うか」：(19) 「ま、いいか」：(20)
	③行動決定：(21)「あそこ開けとくか」
	④受け止め：(22)「もう無理か」 「そうか」：(23)

持ち、その感覚を文末「カ」によって明示する形で発話するものである。

3.4 節および 3.5 節で挙げた日常会話に生じる非疑問の文末「カ」の文の全体を改めて示せば表 5 のようになる。

4. 文末「カ」の文の話者

4.1 調査の観点

林 (2019) および林 (2020) では、文末「カ」の文の話者が特定の属性を持つ人に限定されるケースとして、次の 2 点を指摘した。

一つは、疑問・断言放棄タイプの文すなわち通常の疑問文において、丁寧体の質問文 ((24a)) に比べて普通体の質問文 ((24b)) が成立しにくいこと、普通体の質問文 ((24b)) が成立するのは男性話者のぞんざいな話し方に限られることである。

(24) a. 「もうご飯食べましたか？」 ((1a) 再掲)

b. 「もうご飯食べたか？」

もう一つは、非疑問・断言放棄タイプの文すなわち (25) のような文末「カ」の文は年配の男性話者のえらそうな話し方としてしか成立しないことである。

(25) 「部下が出勤しないことに呆れる上司が」

「山田はまたずる休みか！」 ((1c) 再掲)

このように、疑問文でも非疑問文でも、断言放棄タイプの文末「カ」の文には特定の年齢や性別の話者を想起させるものがある。そこで、本節では、日本語日常会話コーパスにおいて各発話に付与された話者の性別情報 (男性・女性) と年齢情報 (5 歳ごとの区切り) を利用し、上記の二つの

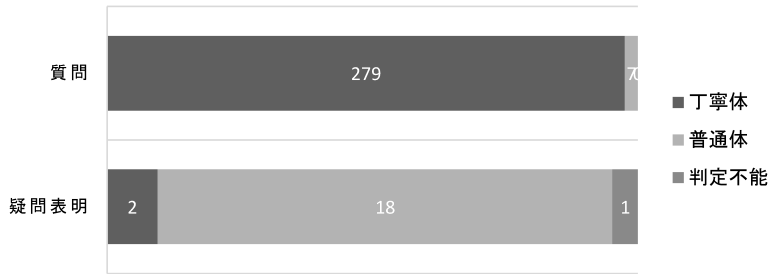


図1 丁寧体発話／普通体発話の割合の比較

ケースの文末「カ」の文の話者について調べた結果を述べる。

4.2 疑問・断言放棄タイプの文の話者

疑問・断言放棄タイプの文末「カ」の文で特定の話者への偏りが問題になるのは、(24b)のような普通体の質問である。ただし、これに当たる文末「カ」の文は、本稿の調査範囲では7例しか見られない。図1から明らかのように、疑問・断言放棄の類に属する文末「カ」の文は、質問に用いられる場合ほとんどが丁寧体の発話なのである。これは疑問表明に用いられる場合ほとんどが普通体発話であるのと対照的である。

もちろん質問が対人的な言語行為である以上、丁寧体発話の割合が大きいのは自然なことである。しかしながら、文末に「カ」を置かない文法構造の疑問文においては普通体の質問文も問題なく成立する（「もうご飯食べた？」など）ことから、普通体の質問文の成立しにくさは疑問文全体の傾向ではなく、文末「カ」の文に特有の問題であると考えられる。

7例の普通体質問文について話者の性別と年齢を示せば、(26)のとおりである。

(26) a. [学生同士の打合せを開始する時、幹事役の学生の発話]

あー。よし。竹中来たし。行けるか。(20-24歳・男性)(T009_006)

- b. [打合せからの退席理由についてたずねる]
デートか？（20-24 歳・男性）（T009_006）
- c. [（26b）に続いて、デートの相手についてたずねる]
結月か？（20-24 歳・男性）（T009_006）
- d. [打合せ中「あっ」と声を上げる相手に対して]
だいじょぶか。（40-44 歳・男性）（T002_019）
- e. [職場の飲み会で近隣の高校の統廃合の話をする]
多摩高も一緒か？（50-54 歳・男性）（T015_006）
- f. [追加注文としてデザート我希望する相手にサラダを注文する必要があるかたずねる]
サラダいいか？（65-69 歳・男性）（T013_018）
- g. [（26f）に続いてたずねる]
デザートでいいのか？（65-69 歳・男性）（T013_018）

（26）に示すように普通体の質問文はすべて男性話者の発話である。ただし、話者の年齢は幅広い。

これらの発話が生じた場面に目を向けると、（26a）～（26c）は学園祭の実行委員会の会議、（26d）は仕事関係の打合せ、（26e）は職場の飲み会、（27f）（27g）は飲食店で元同僚と食事する場面と、さまざまである。仕事関係の打合せである（26d）も終始くだけた話し方で進むものであり、全体を通して、くだけたやりとりの中で発話されることが共通点として挙げられる。しかしながら、図 1 に示した質問における丁寧体／普通体の割合から明らかなように、くだけたやりとりの中でも多くの質問は丁寧体で発話されるのであり、くだけたやりとりが普通体の質問を成立させる決定的な要因であるとは言えない。

また、質問の相手との人間関係に注目すると、（26）の発話はどれも上下関係の中で発話されるものではなく、対等な関係の相手に対して発話さ

れるものである。たとえば (26f) (26g) の話者にはこの元同僚と食事する会話（表 2 の T013_018）とは別に大学の教え子と食事をする会話（表 2 の T013_014b）もあるが、後者では普通体の質問文は発話されない。全 7 例と数が少ないため、積極的な議論は展開しにくい。本稿の調査の範囲内では普通体の文末「カ」の質問は気を遣わなくていい対等な相手とのざっくりばらんな会話の中で生じる傾向にあるとまとめることができる。

ところで、林（2020）で男性話者のぞんざいな話し方としてしか許されない普通体質問文として挙げたのは (24b) 「もうご飯食べたか？」のような動詞述語文であり、その動詞が表す行為の存否を問う質問であったのに対し、(26) に挙げた普通体質問文は (26a) を除いてみな非動詞述語文である。さらに、(26a) は動詞述語文といっても可能形述語であり、行為の存否をたずねる質問の文ではない。したがって、日常会話の調査で普通体の質問自体は少数見つかったものの、(24b) 「もうご飯食べたか？」のようにぞんざいな話し方の発話としてしか成立しない質問文の存在は確認できなかったと言う方が正しいかもしれない。

4.3 非疑問・断言放棄タイプの文の話者

非疑問の文末「カ」の文において話者の属性が偏るのもやはり、断言放棄タイプの方である。(27) のように話者が「カ」の前に置かれた内容に対して心理的抵抗感を抱いて発話する文末「カ」の文は年配の男性話者のえらそうな話し方を想起させる。

(27) 「部下が出勤しないことに呆れる上司が」

「山田はまたずる休みか！」((1c) 再掲)

しかしながら、3.4 節で述べたとおり、本稿の調査範囲では (27) のように話者の不快感に基づいて発話される非疑問・断言放棄の文は確認できず、(28) のように単にそのように断言するのは抵抗があるという感覚に

基づく断言放棄の文を確認したのみであった。

(28) a. [キュウリを大量に食べる子どもを目の前にして]

「河童か」((11) 再掲)

b. [相手の発言に驚いて]

「まじか」((12) 再掲)

このタイプの文の話者を表 6 に示す。表 6 から、話者の不快感に基づいて発話される (27) タイプの文の話者が年配の男性に限定されるのと異なり、(28) タイプは話者の年齢や性別にかかわらず発話が可能であるように見える。ただし、4.2 節と同様、少数の例しか得られていないため、積極的に結論を述べることは控えたい。

表 6 非疑問・断言放棄の文の話者

タイプ	例数	話者の属性
突っ込み (「河童か」)	2	40-44 歳・女性 (T003_021)
「まじか」	4	① 20-24 歳・男性 (T009_017) ② 20-24 歳・男性 (T010_003) ③ 40-44 歳・女性 (C001_001) ② 40-44 歳・男性 (T010_009)

5. まとめ

本稿では日本語日常会話コーパスを利用した調査に基づき、日常会話に生じる文末「カ」の文について、以下のことを述べた。

(I) 日常会話に生じる文末「カ」の文は疑問・断言放棄の類と非疑問・断

言躊躇の類が多い。

- (Ⅱ) 疑問・断言放棄の文末「カ」の文が普通体で質問に用いられることは少ない。その話者の性別は男性に限定されるものの、話者の年齢は限定されない。対等な関係の相手とのざっくばらんな会話の中で生じる傾向がある。
- (Ⅲ) 非疑問・断言放棄の文末「カ」の文は話者の心理的抵抗感に基づいて発話されるが、不快感を伴わない。話者は特定の属性を持つ者に限定されない。

本稿の調査結果から、林（2020）で指摘した「えらそうな男性」キャラクターとむすびつく文末「カ」の文は、映画やテレビドラマの台詞に用いられ、ある特定の属性を持つ話者の「らしさ」を演出する劇中専用語とでも言うべきものである可能性が示唆される。映画やテレビドラマの台詞は日常会話を模して創作されたものであるとはいえ、実際の日常会話と比べれば、台詞には創作として必要な要素も含まれるのである。

一方で、突っ込みや「まじか」のように、映画シナリオの台詞の調査では得られなかった例が確認されたことから、台詞では捨象される日常会話の表現があることも指摘できる。本稿の調査を通して、結果的に話し言葉の資料についても考察を深めることができたと考える。

注

1 <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc.html>

小磯ほか（2019）にコーパス設計の詳細およびモニター公開版の内容が記載されている。

2 読みやすさを考慮し、日本語日常会話コーパスに収録された会話を例として挙げる際には以下のようにする。

- ・公開されている転記テキストには、話者情報として、話者が装着した IC の番号（例：IC01）と愛称に相当する仮名が記されているが、例を挙げる際には仮名のみを記載する。
- ・転記テキストに付与された発音やメタ言語情報のタグは記載しない。また発音の怠けや一時的なエラーに対して本来の表現が併記されている場合は、本来の表現のみを記載する。
- ・転記テキストは読点を置かないが、読みやすさのために読点を加える場合がある。また、

転記テキストにある半角の空白を保持する場合もある。

- ・文末「カ」の文の理解に必要な場合に限り、映像から得られた動作情報を本稿筆者が記載する。また、場面状況についても各例文番号の右に括弧書きで本稿筆者が記す。
- ・個人情報に対して行われた仮名処理を含むテキストを引用する場合は、仮名のまま記載する。
- ・複数の話者が参加する会話では、異なる二つ以上の会話が同時に進行することがある。この場合、文末「カ」の文が含まれる会話の流れを明らかにするため、同時進行する別の会話は省略する。
- ・各例の末尾に括弧書きで会話 ID を示す。

参考文献

- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉（2019）『国語研究所日常会話コーパスプロジェクト報告書 3 『日本語日常会話コーパス』 モニター公開版コーパスの設計と特徴』
- 林淳子（2019）「発話としての文末「カ」の文」『日本語と日本語教育』47
- 林淳子（2020）「第 6 章 ショウカ疑問文の異質性」『現代日本語疑問文の研究』くろしお出版

付記

『日本語日常会話コーパス』 モニター公開版の利用にあたり、国立国語研究所による利用許諾およびハードディスク版の提供に感謝申し上げます。